

令和3年度 打上小学校だより



唐津市立打上小学校
2021年9月30日(木)

第10号

文責 校長:栗本洋二



打上小 Web

あきらめない心

涼しい風が吹くようになりました。読書の秋、食欲の秋といろいろな秋がありますが、いま学校は「芸術の秋」。多くの学級で絵画制作に取り組んでいます。そこで、今日の全校朝会では、詩人であり画家でもある星野富弘さんのことを話しました。

ご存知の方もいるかも知れませんが、星野さんは不慮の事故で首から下が動かなくなり、口に筆をくわえて文字や絵を書かれます。現在75歳の星野さんが24歳の時、群馬県で中学校教師になったばかりの頃、クラブ活動の指導中に頸髄を損傷、手足の自由を失ってしまいます。一時は生きていても仕方がないとまで思いつめてしまいましたが、今の苦しみは希望につながっているのだと気持ちを切り替え、一生懸命に生きることを決めました。

星野さんは、まず口にペンをくわえて文字を書き始めます。口に血をにじませ、歯を食いしばって毎日練習を重ねることで、だんだんうまく書けるようになりました。すると今度は、口に筆をくわえて、身近にある花の絵を描き始めました。絵には短い詩も添えられました。こうして描かれた星野さんの作品は、今でも、世界中の人々に多くの勇気と感動を与えているのです。

どんなに大きな目標であっても、どんなに困難なことがあっても、あきらめずに努力を続ける。子ども達には、経験を通じてその大切さに気付いてもらいたいと思っています。

良い結果ばかりが待っているとは限りません。けれども、頑張り続ける過程が人を成長させます。頑張る姿が周囲に勇気を与えます。そうした意味では、オリンピック・パラリンピックは、まさに生きた教科書でした。

明日から10月。学校の1年間は後半に突入です。私たちは、全力で子ども達の「あきらめない心」を応援していきます。ご家庭でも、小さくて目立たない頑張りにこそ光をあて、しっかりと認めていただきたいと思います。



実りの秋 ~稲刈りありがとうございます~



手刈りはキツかね~

4月の田植えから4ヶ月半、立派なコメが実りました。

今年はコロナの影響で、稲刈りは育友会役員の方々や公民館長の山下さん、学校評議員の山下さんと職員で行いました。悪天候続きで足もとがゆるく、機械が入らなかったため、手刈りという大変な重労働となりましたが、おかげさまで200kgを超える収穫がありました。ありがとうございます。

平和な世界のつくり方

9月10日、全校で平和集会を行いました。8月27日に実施のはずが、臨時休業の影響で延期になったものです。コロナ対策のため、体育館での集会を「校内放送と教室分散型プレゼン」方式に変更して行いました。臨機応変、新しい打上小文化の創造です！

当日は、子ども達の出番がたくさんありました。例えば各学年代表による感想発表。平和映画を観て感じたことを上手にまとめて発表してくれました。発表者は次の6名です。

1年 中島よういちさん 2年 谷口りおさん 3年 小宮しんたろうさん
4年 松本かほりさん 5年 松尾みれいさん 6年 佐藤るいさん

マイクを通しての全校放送、緊張したでしょうけれど、とてもよかったです。

また、6年生が、平和学習で学んだことについて、プレゼンテーションソフトを使って説明してくれました。密を避けるため、1～5年生が教室ほかいくつかの部屋に分かれて入り、6年生が小グループでまわるスタイルです。

内容は、原子爆弾のことや当時の被害状況など、グループ別に異なるテーマでまとめられ、また、見せ方・伝え方もよく練られていて、とてもわかりやすかったです。



子ども達の出番はほかにもありました。6年生の発表を聞いた1～5年生から、質問や感想がいくつも出るのはです。われ先にと手が挙がる姿を見て、驚きとともに感動すら覚えました。聞く・話す力は、こうした授業以外の場面でもしっかりと鍛えることができると感じました。

しっかりと聞き、話す力。これからも打上小の子ども達の強みとして高めていきたいと思います。

<校長の話>

右の相田みつをさんの詩を紹介しながら、みんなで平和な世界をつかっていくために、「スポンジの心」を持ってほしいことを伝えました。

みつを

いつもセトモノ
さういうわたしは
もちましよう
やわらかいころを
だいじようぶ
やわらかければ
どっちか
すぐこわれちゃう
ぶつかりっこすると
セトモノと
セトモノと